

第56回 トノサマガエル

カマコちゃん かほくがたチルドレン

ヒロ



河北潟の周辺の水田やわずかに残っている土水路などで、いまでもトノサマガエルを見ることができます。かつてはもっと多く生息していたと思われませんが、いつの間にか極端に数を減らしてしまい、めったにお目にかかれなくなってしまった河北潟の仲間です。

トノサマガエルはほとんどの人がその名を知っているほどに有名なカエルですので、全国に分布していると思われがちですが、実は東京を含む関東や、南東北の太平洋側には分布していません。関東には、トノサマガエルによく似たトウキョウダルマガエルが生息しています。また西日本にはダルマガエルが、東海地域にはナゴヤダルマガエルが生息しています。

トノサマガエルは山地にも住んでいますが、平地の田んぼは重要な生息場所の一つです。その田んぼがだんだんと少なくなっていること、ほ場整備で住む場所がなくなってきていること、そして農薬使用や中干しの普及によって、オタマジャクシのすみかや餌がなくなってしまったことで、全国的には絶滅が危惧される動物になってしまいました。河北潟では水田の面積はあまり減っていませんが、ほ場整備や農薬使用により水田の質が変化してしまったことで、トノサマガエルは、少なくなっていました。

トノサマガエルとダルマガエルやトウキョウダルマガエルの両種が生息している地域では、これらの雑種が確認されるようになってきました。水田のまわりが整備されたり稲作の時期が変化したりする中で、それまで棲み分けしていた両種が、開発や農法の変化によりそれぞれの生息環境である水田が少なくなったり質が変わってしまったことに

より、両者の生息場所や繁殖期が重複し、交雑が起こっていることが原因といわれています。

漫画などでトノサマガエルが「ケロ・ケロ」とか「ゲロ・ゲロ」と鳴いていることがありますが、どうもこれはトウキョウダルマガエルの鳴き声と間違えているようです。東京など関東地方にトノサマガエルがいないため、トウキョウダルマガエルの鳴き声の方が有名になってしまったようです。トノサマガエルは、「グルル・グルル」といった鳴き声で静かに鳴きます。その頃、鳴き声ではアマガエルの「ゲッゲッゲッ」の方が目立っています。

鳴くのは雄で、雌を呼ぶためですが、中には鳴かない雄もいます。サテライトとって、他の雄に呼ばれた雌をちゃっかりと横取りするそうです。こうしてみると殿様というより忍者という感じです。それでも田んぼにポチャンと飛び込んだり、草むらから突然飛び出したり、存在感がありましたが、いつの間にかほんとうに目立たなくなってきました。(文：高橋 久)